

## 第 213 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

村山元理

第 213 回例会 2016 年 11 月 28 日 (月) 18:00~20:00  
場所 神田学士会館 308 号室  
参加者 佐藤、山本、宇佐神、古山、望月、村山の 6 名  
欠席届 辻井、新川、緒川、長塚、

発表

### 1. 「K 銀マン・佐藤陽一さんの人生と哲学 (後半)」 (村山)

当日メールで本文が配布、補足箇所の説明。不明確な部分は佐藤さん本人からお話を聞くことになったが、想像以上に長い説明となってしまった。リアルなライフヒストリーから経営倫理のあり方を学習しようとの趣旨であるが、長い人生からは重要な論点・素材がまだまだあり、書き足りていないことが改めて浮き彫りとなった。目下、以下の視点が重要であり、これから組織人として会社生活を送る学生たちに参考になることと思う。

1) 組織において、どのような目標をもって生きるのか。トップのことを絶対視して、粉飾決算も厭わない。トップが間違っただけを言えば、逆のことを言う。しっかりとモノを申す。権力者に対しても、正論を通し、二度の左遷人事も受けたが、そのような人生もあることを佐藤さんの人生は示している。

- 2) 組織の中における明るみに出ない不正。
- ・強力な縁故によって倒産をさせない事例。有力者への特別な配慮の是非。
  - ・頭取奥さんとご友人 3 名の官費接待の是非。公私混同。

### 3) K 銀行が最終的に消滅した理由

審査部を廃止して、業務部に統合したこと。不動産投資に資金が流れ、不良債権化したこと。その決定をしたのは同期生 (東大卒)

- ・大阪支店の不祥事、尾上縫事件

お金の意味：貸してはいけない人とは？

上記の視点・論点を「はじめに」の箇所で入れこと。修正へ。

### 2. 「ἠθιζω (ethizo)=moralis=customs カントの「義務論」を巡っての考察—法学の基礎としての倫理学—」 (古山) エッセー送付済み

カントの著書の題名から Metaphysics の語源、ontology の語源はベンサムであること。カントの『人倫の形而上学』が 2 部構成であり、第 1 部は法論と第 2 部は徳論となっている。別個に取り上げられて論じられていることを批判して、規範の法則を守らせるために法律に訴えたという意味でカントは常に理論ではなく、実践を重んじていたことを明らかにした。宇佐神先生からは、カントだけでなく、自己の欲求 (ゲーテのファウスト) と照らし合わせて、自己を知る道、言葉には実践力がある面についての批評があった。